

重要課題検証「中間取りまとめ」(概要)

～医薬品に係る国民負担の軽減(後発医薬品の使用促進等)～

資料1-1

課題

後発医薬品に対する
安心・信頼の向上

医薬品産業の
創薬力・競争力強化

国民負担の効果的
・効率的軽減

提言内容

医師・患者等の不安の要因：
後発薬の種類が多さに伴う情報の不足・混乱

厚生労働省等に以下を要請

- ・国による品質確保の推進・情報提供の拡充
- ・公務員共済組合による率先使用
- ・地域協議会(医師・薬剤師等)の設立と「汎用品リスト」の推進・透明化
- ・安定供給ルール of 徹底、使い勝手の良い名称ルールの在り方の検討

H26年「秋のレビュー」の指摘のうち、後発薬の使用割合によって各保険者が支払う後期高齢者支援金を加減算するとの提案は、今年の医療制度改革で措置

- ①後発薬使用割合を80%以上に引き上げ：後発薬メーカーが先発薬メーカーから受託生産している先発薬製造ラインの切替により、前倒し可能。新目標の達成時期は、2020年度末より前の、できるだけ早期に設定すべき。
※ 促進策として、診療報酬上の対応に加え、処方箋様式も変更。
- ②特許の切れた先発薬(長期収載品)の保険給付額の見直し：長期収載品の保険給付額を後発薬の価格に抑える仕組み(いわゆる「差額の自己負担化」を含む。)は、患者に後発薬への切替のインセンティブを付与するために有効な手段。医薬品によるアレルギーの扱い等をセットで検討する必要。

日本の医薬品市場は、> 諸外国に比べ長期収載品の売上高比率が高い

> この構造を温存しては後発薬の利用拡大にとっても新薬開発の促進にとってもマイナス

- ①後発薬の使用目標を大幅に引き上げ、長期収載品の市場シェアを引き下げ
更に、後発薬への置換えが進まない長期収載品は薬価の引き下げも検討。
- ②先発薬メーカーの創薬力を強化するため、革新的新薬のイノベーションを適切に評価
研究開発費を継続的・安定的に投じ得る基盤の確保は重要。ただし、新薬創出加算が創薬力強化に有効かは検証が必要。
- ③後発薬の薬価引下げ等により、後発薬メーカーの体質を強化
後発薬の新規収載時の薬価引下げ、安定供給・説明責任の強化を図ることで、体質を強化。後発薬の薬価引下げは国民負担軽減のためにも必要。